



中学生の「税についての作文」



租税教育推進活動の一環として納税貯蓄組合総連合会並びに関係協力団体が中学生の「税についての作文」を募集し、川崎市・幸区の中学校から多数の作品が寄せられ、川崎南税務署長賞をはじめ各団体賞があり厳正な審査の結果、当川崎南法人会会長賞に川崎市立川崎高等学校附属中学校3年生、名倉響生さん、川崎市立富士見中学校3年生、小田澤奈々葉さん、川崎市立川崎中学校3年生、田中優菜さんの3作品の作文が選ばれましたので紹介します。

川崎南
法人会
会長賞

川崎市立川崎高等学校附属中学校 3学年 名倉 響生

私が社会で生きるために

私は、税が嫌いだ。買い物をする時には必ず消費税がついてくる。まだ私は納めてないが大人になったら「税金」を支払わなければならない。税は私たちの暮らしに大事なことは分かっているが、使われている場所などはほとんど知らない。時折、税金が老人ホームなどの介護施設に使われているということは聞くのだが、果たしてそれは私にとって利益があるのが、そう考えると「無い」という結論に至ってしまう。しかし、逆に税金がなくなればいいのかというとそうではない。例えば、私や私の親が老人ホームの入居を余儀なくされたときに、税金がなくて老人ホームがありません、建てられませんか、となってしまうたら困るでは済まされない。さらに、こんな体験談がある。

私がまだ中学一年生の時、初めて私のおこづかいで服を買った。そのときに本体価格は所持金で足りたのだが、消費税を入れると少し足りず、あえなく家に帰ってお金を追加することになってしまった。この時は夏真っ盛りだったので苦痛だった。帰っている途中は本当に税金を恨んだ。なんで税金があるんだ、こんな物がなければこんなに苦労しないで済んだのに、そう思っていた。このことを親に言った時に、税金の大切さをまだわかっていない、と叱られてしまった。この意味は、案外すぐに分かった。後日、友人と遊ぶという

話になった。そして遊び場所の話になり、ある一人が、「子ども夢パーク」という場所を打ち出した。私はその場所を良く知らず、施設のようなので入場料があるのかと警戒していたが、無料で入ってみたら凄く楽しかった。入場料が無料だったので汚いのかと思っていたが、充実した設備で貸し遊具やスタジオがあるから驚きだ。無料でこんな素晴らしい施設をどうやって運営しているのだろうと考え調べたところ、なんとあの嫌悪していた税金ではないか。これで親の言っていた意味が良く分かった。税金は私を苦しめるものではなく、逆に私たちの生活を豊かにするのに使っているのだと考えた。それ以来、税金に対する不満がなくなり、胸を張って消費税を出せるようになった。

最初は税金に対してマイナスなイメージを持っていたが、この出来事があったからこそ税金に感謝するようになった。決して無意味なものなんかではない。私たちの生活に多大なる影響を与えるものだと確信した。さらに私だけではない。社会で活動する人全員が私の税金で助かっているのかもしれない。逆に助けられているのかもしれない。そう思うと、前の自分が腹立たしくなってきた。税金を憎むのは間違っている、尊いものだとして教えてやりたい。そう思った。



* 右の絵と左の絵には相違点がある。7か所あります。見つけられますか？（答えは5頁にあります）

7つの
間違い探し

【作者紹介】

神谷一郎（かみや・いちろう） イラストレーター、デジタルイメージ会員、日本出版美術家連盟会員など。専修大学法学部卒業後、漫画プロダクションを経て漫画家に。現在はフリーランスのイラストレーターとして、雑誌・広告・WEB等で活躍中。第35回集英社YJ新人賞、第51回講談社漫画賞などを受賞。第4回デジタルアートコンテスト佳作。著作に「マニアックサイバー」（グラフィック社刊）。

中学生の「税についての作文」

川崎南
法人会
会長賞

明日への募金

川崎市立川崎中学校 3学年 田中 優菜

「またとられる税金増えるじゃん…。」
四年前、税金が5パーセントから8パーセントへと引き上げられると知った時、正直私は不満に思いました。買い物をする時に払うお金が増えてしまう事が損しているような気がしたからです。それをきいていた母が「税金は国にとられているお金ではなく、国に募金しているお金なんだよ。」と私に言いました。その時に「そんな綺麗事言われても…」と腑に落ちない気持ちになったのを覚えています。でも、それから何年か後に私は母の言葉の意味を理解することになりました。

しばらくたったある日、私がいつも通り家でテレビを見ていたら、さっきまで何かを電話で話していた母が真っ青な顔で「弟がブランコから落ちた。」と家を出ていきました。

そこからのことはよく覚えていないのですが、弟は腕を複雑骨折したようで、直ぐに近くの小さな病院へとつれていかれました。しかし、事は思いの外重大だったらしく、今度は手術を受けるために、大きな病院へと救急車によって運ばれていきました。結局、その日は母も父も手術をする弟につきっきりとなり、私は一人ぼっちで夜を過ごすことになりました。次の日、何とか弟は助かったようで朝起きたら病院から帰ってきた母と父がいました。どうやらなかなか受け入れてくれる病院が見つからず、日が変わるまで帰ってこれなかったそうです。母は「夜遅くまで大変だったけど、

それよりも救急隊の人達が必死になって病院を探し続けてくれたのが涙がでるほどありがたかった。」と救急隊の人達にとっても感謝していたようでした。

私はその話をきいた後、ほっとした半面「お金のほうは大丈夫なのかな。」と図々しくも思いました。そんな私の心を読んだのか母は「救急隊の人は全部たで動いてくれたんだよ。」と教えてくれました。

私はそのことに衝撃をうけると共に「その人達のお給料はどうなるのだろう。」という疑問がうかんできたので、少しそのことについて調べてみようと思いました。

その結果、救急隊の人達は国の税金によって動いていることが分かりました。さらに、それだけでなく、いつも使っている道路や私の通う学校、毎日見かけるゴミ収集。これらも全て税金のおかげなのだと知りました。

そのことを知ってから私は、昔母に言われた「税金は国にとられているお金ではなく、国に募金しているお金。」という言葉の意味をやっと理解することができました。それと共に、過去にけちけちとしていた自分はずかしくてたまらなくなりました。

母は「国に募金しているお金」が税金の形だと言っていました。でも、今の私は「明日への募金」が本当の税金の形だと思います。私が税金を払うことによって知らないだれかの明日を救うことにつながると思ったからです。そして今日も明日への募金をしています。

川崎南
法人会
会長賞

身をもって学んだこと

川崎市立富士見中学校 3学年 小田澤奈々葉

「税金は大切だ。」と言われていますが、私はなぜ税金が大切なものなのか、今まであまり理解していませんでした。しかし今年、税金はすごく大切なものだと身をもって感じました。

今年の六月。私は気管支炎喘息になりました。昨年の同じ時期にかかった気管支炎と、梅雨時のダニやホコリが原因だそうです。

「気管支喘息の場合、医療費が税金によって市から助成されますよ。」と医師に言われ、私はそれがすごく不思議でした。家に帰ってから父に、

「なんで気管支喘息だと医療費が助成されるの？」と聞くと、父は、

「それは当然の権利なんだよ。」と答えました。

父の言葉に私は、「本当に当然の権利なのだろうか、当然なことではないのではないか。」と強く思いました。これをきっかけに、助成金についてくわしく調べてみることにしました。

現在私の住む川崎市では、小児喘息と診断されると（条件は20歳未満、川崎市に一年以上在住、健康保険に加入）医療費受給証が交付されます。それを病院の会計の際に提出すると、医療費が助成されるのです。気管支喘息は、完治するまでに約3ヶ月はかかります。その間、発作を静める薬と、発作を抑える薬の2種類を飲まなければなりません。それらを約3ヶ月間も飲むとなると、とても高額な費用がかかってしまいます。

私の家は、父一人で私のことを育ててくれています。今年は、受験生でもあり、父もかなり協力してくれています。そんな父にさらに負担をかけたくないという気持ちと、なんで私がこんな病気になってしまったのだろう、というくやしい気持ちでいっぱいでした。そんなときに助けてくれたのは、市からの助成金でした。助成金は、国民の税金から出されているそうです。私は、父の負担も、私のくやしい気持ちも、喘息も全て国民の税金に助けられたのだということに、気がつきました。

来年、消費税は8パーセントから10パーセントに引き上げられます。あるニュースのインタビューでは、「上がらないでほしい」や「家計に響く」などといった、マイナスの声が多くありました。言葉にしろなくても、心の中で否定的に思っている人も少なくないと思います。しかし、消費税の充当先は「年金、医療、介護、子育て」です。私のような家族や、本当に助けてほしいと思っている人に力を貸せる身近な方法は、税金を納めることだと思います。

国民の負担が増えると、マイナスの印象が強い税金ですが、人生の中で本当に困ったときに助けられるときがくるかも知れません。だから、その時のためにも税金についての正しい知識を持つ必要があると思います。喘息になったのは辛いことでしたが、税について考えるきっかけを私に与えてくれました。